

《夜、嵐、祈り、狩》(1812-13年頃)¹ 水谷 彰良

夜、嵐、祈り、狩 *La notte, Temporale, Preghiera, Caccia*

作曲 1812-13年頃

初演 不明

編成 2フルート、1クラリネット、ヴァイオリンI・II、ヴィオラ、チェロ

演奏時間 約9分半

自筆楽譜 United States, Paul C. and Gladys W. Richards Charitable Foundation

初版楽譜 下記の批判校訂版

現行譜 下記の批判校訂版

全集版 未成立。批判校訂版はWGR: Chamber Music without Piano.,2007. (BA 10511)

構成 ト長調、4/4拍子、アンダンティーノ(〈夜〉)～アレグロ(〈嵐〉)～変ホ長調、2/4拍子、アンダンテ(〈祈り〉)～ト長調、6/8拍子、アレグロ(〈狩〉)

解説

Gossett-2001²には「嵐」を含まない「*La notte, Preghiera, Caccia*」と不完全な記載がされていた。自筆楽譜は歴代の所有者と二度のオークション(1918年と1974年)を経て現在の所蔵(上記)となり、全貌は2007年刊行のペーレンライター社の批判校訂版(上記)で明らかにされた。編成は、2フルート、1クラリネット、弦楽四重奏で、クラリネットは〈祈り〉と〈狩〉にのみ使われる。作曲年は《アンダンテと変奏付きの主題》(ヘ長調)との筆跡の類似や周辺状況から、《試金石》(1812年9月26日ミラーノのスカラ座初演)前後の1812-13年とされる。

音楽は次の四部分からなる。

〈夜〉: ト長調、4/4拍子、アンダンティーノ。夜の雰囲気を表す詩情豊かな音楽。

〈嵐〉: アレグロ。《六つの四重奏ソナタ》でも用いた自然描写による音楽。

〈祈り〉: 変ホ長調、2/4拍子、アンダンテ。名技的なクラリネット独奏に旋律を委ねた楽曲で、《試金石》第2幕ジョコンドのレチタティーヴォとアリアにおけるクラリネットのソロと雰囲気が似ている。

〈狩〉: ト長調、6/8拍子、アレグロ。フォルティッシモの総奏に狩猟ホルンの音楽を模した部分を含む華やかな終曲。

楽器による感情や雰囲気の描写、自然の模倣、ソロの名技的用法は当時の室内楽曲の一般的傾向であるが、この作品では、第二ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロが伴奏の役割にとどまっている。

推薦ディスク:

- ・ Italian Classical Consort (2009/10年録音 Gallo CD-1354)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシニ全作品事典(25) ロッシニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。
² *The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収のフィリップ・ゴセット(Philip Gossett)によるロッシニ作品目録